



【共通】

◆生育状況について

生育は、品目により差はあるものの、昨年より5～7日程度早い。管理・収穫前作業や収穫が遅れないように注意したい。

◆当面する重点作業について

1. 薬剤散布を適期に実施する。
2. 定期的なかん水を実施し、健全な生育を促す。

【プルーン・すもも】

◆スモモヒメシンクイの防除対策について《重要》

1. 薬剤防除：定期防除は、散布間隔を守りしっかりと散布ムラなく、量をしっかりと掛ける。
2. 耕種的防除：園内をこまめに巡回し、樹上の被害果・落果した被害果をすべて見つけ処分する。
3. 処分方法
 - 1) 被害果を園外に持ち出し、7日以上水漬けし果実中の幼虫を殺す。
 - 2) 土中に埋める場合は、1m以上深く埋める。浅いと羽化し、再び発生するので注意する。
 - 3) 厚い肥料袋等に被害果を入れ、羽化成虫が外に飛び出さないよう口を固く結ぶ。レジ袋等は不可。
 - 4) 放任園や自家用で、防除しないプルーン・すもも等発生源を伐採してもらう。
4. 被害果の特徴
 - 1) アメをだす。
 - 2) 果面に地図を描く。
 - 3) 果面が黄色や紫色に変色。
 - 4) 落果している。

◆灰星病の防除対策について

被害果を見かけ次第（降雨の前に）除去し、園外へ持ち出すが土中に埋め、被害果を触った手で他の果実に触れないようにする。

◆第9回薬剤散布について

1. 散布時期：6月21日（日）～26日（金）

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：4000以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
（展着剤まくぴか）	10,000倍	10ml	—	—
ベルクトフロアブル	2,000倍	50ml	3日	灰星病
Ⓢバリアード顆粒水和剤	2,000倍	50g	前日	シンクイムシ類

3. 散布上の留意事項
 - 1) 収穫中の品種には、薬液が飛散しないよう注意し散布する。
 - 2) 散布の際、ブルームの流れ、雫による薬斑軽減のため細かい霧で実施する。
 - 3) 収穫中の品種には、薬液が飛散しないよう注意し散布する。
 - 4) 収穫直前の品種は、定期薬剤散布に代えて次項の収穫前薬剤散布を行う。
 - 5) 展着剤を「まくぴか」10,000倍（水1000ℓ当り10ml）にすると、均一に付着しやすくなり、乾きが早まるため、液だまりが減少する。
 - 6) ハダニ類の発生が心配される場合は、第9回薬剤散布にマイトコーネフロアブル1,000倍（水1000ℓ当り100ml・収穫前3日）を加用散布する。
 - 7) アメリカシロヒトリは巣網のうちに捕殺するか、焼却処理する。

◆収穫前薬剤散布について

1. 散布時期：収穫開始2日前

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：4000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
オンリーワンフロアブル	2,000倍	50ml	前日	灰星病

3. 散布上の留意事項
 - 1) 「収穫前日」とは、収穫24時間前までに散布が終了している事を意味する。
 - 2) オンリーワンフロアブルに代えて、オーシャインフロアブル 3,000 倍（水 1000ℓ当り 33ml・収穫前日）又はアンビルフロアブル 1,000 倍（水 1000ℓ当り 100ml・収穫前日）を使用してもよい。

【なし】

◆第7回薬剤散布について

1. 散布時期：6月13日（土）～6月17日（水）

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：棚4500ℓ以上・立木5000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
Ⓔダイアジノン水和剤34	1,000倍	100g	14日	シンクイムシ類・ハマキムシ類
ペンコゼブ水和剤	500倍	200g	30日	黒斑病・黒星病

3. 散布上の留意事項
 - 1) ダイアジノン水和剤に代えて、スミチオン水和剤40の1,000 倍（水 1000ℓ 当り 100g）を使用してもよい。

◆第8回薬剤散布について

1. 散布時期：6月27日（土）～7月1日（水）

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：棚4500ℓ以上・立木5000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
Ⓔダイアジノン水和剤34	1,000倍	100g	14日	シンクイムシ類・ハマキムシ類
ペンコゼブ水和剤	500倍	200g	30日	黒斑病・輪紋病

3. 散布上の留意事項
 - 1) ダイアジノン水和剤に代えて、スミチオン水和剤40の1,000 倍（水 1000ℓ 当り 100g）を使用してもよい。

◆新梢管理について

1. 日本なしは、新梢伸長が停止した枝から順に棚面に対して45度くらいに誘引する。特に棚下から発生する新梢は、棚面まで伸びてきた際に小張り線をくぐらせておく。
2. 側枝の基部近くが徒長しやすくなるので、発生した新梢は除去するか4～5cm（展葉4枚）で摘心する。また、伸長が停止した新梢は、斜めに誘引し側枝候補とする。
3. 側枝中間部分では、上側から発生した新梢を除去する。
4. 側枝先端は、養分が先端に行くように立ち上げる。
5. 短果枝から発生する新梢は、赤い芽のうちに欠くか、葉を4枚残して摘心する。

【おうとう】

◆第6回薬剤散布について

1. 散布時期：収穫直後 実際散布月日 月 日
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：500ℓ

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
ダニゲッターフロアブル	2,000倍	50ml	前日	ハダニ類
㊦ダイアジノン水和剤34	1,000倍	100g	14日	アブラムシ類
オーソサイド水和剤80	800倍	125g	3日	褐色せん孔病

3. 散布上の留意事項
1) ハダニ類発生が増加する時期のため、薬液がよくかかるように夏季剪定後に実施する。

【あんず】

◆補助薬剤散布について

1. 散布時期：前回散布10日後 実際散布月日 月 日
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：400ℓ

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
㊦カナメフロアブル	4,000倍	25ml	前日	灰色かび病・灰星病・黒星病

3. 散布上の留意事項
1) 前回散布10日以降に収穫が見込まれる場合では散布する。
2) 降雨が多く灰星病が心配される場合は、もう一度オンリーワンフロアブル2,000倍（水1000ℓ当り50ml・収穫前日）を特別散布する。

【うめ】

◆新梢管理について

若木等徒長枝の旺盛な園は7月にかけて徒長枝・不要な枝を2～3回に分け整理する。花芽分化期であるので結果枝に陽を当てるが日焼けに注意し徐々に整理する。

傷口保護のために、トップジンMペーストを塗布する。

◆第6回薬剤散布について

1. 散布時期：収穫後 実際散布月日 月 日
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：500ℓ

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
トップジンM水和剤	1,500倍	66g	21日	胴枯病・黒星病
㊦ダイアジノン水和剤34	1,000倍	100g	21日	アブラムシ類

3. 散布上の留意事項
1) 胴枯病と早期落葉を軽減する。枝幹部へしっかりと掛ける。